

虹をかけよう、やさしい心で

～ほんとうの豊かさを追求する みんなが暮らしやすい持続可能なまちをめざして～

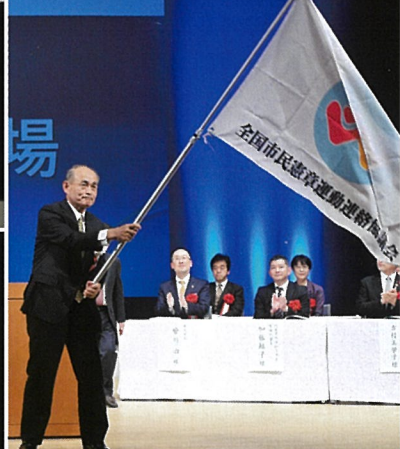
山形県鶴岡市 市民憲章運動推進第57回全国大会 鶴岡大会

市民憲章運動推進第57回全国大会 鶴岡大会





国大会 鶴岡大会



「ここに生きる―ほんとうの豊かさを追求めて―」
旧庄内藩主 酒井家第18代当主 酒井 忠久氏
農業民俗レストラン 知憩軒 支店長 長南 光氏
鶴岡総合研究所 研究顧問 東山 昭子氏



「市民憲章運動推進第57回全国大会 鶴岡大会」が10月20日～21日、山形県鶴岡市の荘銀タクト鶴岡を会場に開催された。市民憲章の理念に基づいたまちづくりに取り組み団体等で構成される市民憲章運動連絡協議会が毎年開催している大会で、鶴岡市での開催は初めて。鶴岡市民や全国各地の市民憲章運動を推進している実践者、行政関係者等約900人が参加した。

城下町の気風が育んだ歴史と文化を紹介する構成吟(特定のテーマのもと詩吟をいくつかひとつのストーリーにまとめてナレーションやBGMを入れて発表するもの)「藤沢周平のふるさと 出羽庄内 鶴岡の風」がオープニングアトラクションとして幕を開けた。

主催者あいさつで村田忠久・全国市民憲章運動連絡協議会会長(鶴岡市民憲章推進協議会会長)は「日頃から市民憲章運動の実践に取り組んでいる全国各地の皆様を『今も殿が暮らすまち 城下町鶴岡』にお迎えし、意見交換や活動報告、交流交歓ができることにはこの上ない喜び。この大会は、市民憲章の理念が市民生活の中に根付き、その精神が新たな世代に引き継がれ、健康で安心して生きがいを持つ豊かな地域になるよう、また、市民憲章運動の更なる発展に役立てばとの願いを込めて開催します」とあいさつ。開催地市長の皆川治・鶴岡市長、加藤鮎子・こども政策担当大臣(ビデオメッセージ)、吉村美栄子・山形県知事(代読)

そのあとは、鼎談となった。出演者は、旧庄内藩主酒井家18代当主・酒井忠久氏、農家民宿レストラン知憩軒支店長・長南光氏、鶴岡総合研究所研究顧問・東山昭子氏。「ここに生きる―ほんとうの豊かさを追求めて」をテーマに、酒井家入部400年を迎えた鶴岡で、次の100年に向けて、伝統を守りながら、しかし不易流行のまち鶴岡の歴史と現代の取り組みを語り合った。

活動発表は、市民憲章運動研究の第一人者の三輪真之氏(計画哲学研究所所長)をコーディネーターに、令和2年度市民憲章「青少年の部実行顕彰」実行賞受賞の山形県立庄内農業高等学校農業クラブと、令和4年度市民憲章「一般の部実行顕彰」実行賞受賞の新海町ラジオ体操愛好会が実践活動を発表した。

山形県立庄内農業高等学校の生徒たちが食品加工を学ぶ一環として製造してきた「庄農うどん」。地域ににぎわいをつくろうと令和元年から産学官連携で店舗での提供事業をスタート。農業クラブは、この「庄農うどん大作戦」の中で製作と普及活動を通して自分たちの学びが地域活性化につながる取り組みを発表した。新海町ラジオ体操愛好会は、設立から13年、雨の日も風の日も続けたラジオ体操が市民の心の絆と心身の健康を育むものとなっている。この取り組みが町内のみならず他の地域にも広がっていったと発表



した。

コーディネーターの三輪氏は、現在の地域づくりのトレンドは、若者にフォークラスすること人づくりではないか。野球の大谷翔平や将棋の藤井聡太が今の若者の代表だとすると、共通点は何か。それは、温かい風土で育ったことではないか。心豊かな風土から新しい世代の素晴らしい活動は生まれてくる、と結んだ。

クロージングアトラクションでは、発足77年の鶴岡放送児童合唱団の児童生徒たちが活き活きと唄い、「今後も市民憲章運動による実践活動を推進し、本当の豊かさを追求する、みんなが暮らしやすい持続可能なまちづくりを目指す」などとした大会宣言も行われた。

夕方からは、会場を東京第一ホテル鶴岡に移して交流交歓会となった。交流交歓会は、全国から来た市民憲章運動関係者が、日頃の活動を基に情報交換や旧交を温め楽しむ時間。湯田川温泉神楽保存会による神楽が花を添えた。

2日目は、今も殿が暮らす城下町・鶴岡の視察研修。庄内藩主酒井家の御用屋敷を活用した、鶴岡の歴史や文化を伝える致道博物館や鶴岡・庄内のシルクを五感で学べる体感型施設松ヶ丘シルクミライ館を見学した。月山・湯殿山・羽黒山の三神を祀る合祭殿を参拝後、斎館で羽黒山精進料理をいただき、最後はクラゲの展示種類世界一を誇る加茂水族館を見学した。